

30. 世羅郡世羅町最高峰

頭士山 (648.2m)

世羅郡世羅町／三次市甲奴町



世羅町安田口と甲奴町宇賀の境の山。「甲奴郷土誌」には麓に櫓町、塔の丘などの地名が残り、頂上に広い平坦面があるので、城があったと思わせるとの記述がある。

世羅郡世羅町	2017,5,1 推定
<面積>	278.14 km ²
<人口>	15,834人
<人口密度>	56.9人/km ²

【山行日】 6月15日(木) ☆天候：晴れ

【参加者】 2名

西田文雄 宮木一民

【コースタイム】

広島発 8:00→甲奴インター9:30→登山口 9:55→山頂着 10:20 (休憩、写真撮影) 山頂発 10:30→登山口 10:55

【報告】

頭士山は、世羅町のほぼ中央北側の三次市との境にある。世羅町品山集落からの比高は約120mで、周囲からも目立つ円錐状の独立峰となっている。

中国横断自動車道 尾道―松江道の甲奴インター出口の三叉路より南西に1.2km行き、突き当たった宇賀安田線(428号)を南西方に約1.0km行くと、三次市と世羅町の境界を示す看板がある。ここより約350m先の大きくカーブしたところの山側に小径の入り口がある。

小径は小さな木と笹に覆われ藪漕ぎ状態となっているが、しばらく登ると一帯が杉林にな



っているところに出る。この杉林の中の急傾斜面を登ると、ごつごつした大きな岩塊が数個点在しているところがある。この横からさらに頂上を目指して直登すると、少し開けた山頂となり中央部に三角点が設置されている。ここが頭士山の頂上である。登山時間は約25分、頂上のまわりが高い木々に囲まれていて展望はない。

下山は、登ってきた方向を誤らないように注意しながら、スマホで上山のときの軌跡からズレていないことを確認しながら下山。スマホは頼りになる登山道具である。

(記 西田文雄)

頭士山周辺は「大田荘(おおたのしょう)」だった所・・・

広島県の荘園として、よく名前が出てくるのが大田荘おおたのしょう(大田庄)。未開地を開墾し広げ、統括していたのはこの地の豪族のはずだが、寄進しないと支配は成り立たない。平安時代末期、この地の豪族だった橘氏は、時の権力者平清盛を頼り、清盛の子どもの重衡(しげひら)に寄進したそう。そして、平氏はさらに後白河院へと寄進する。荘園は広域で、現在の世羅町の大部分、そしてこの頭士山の北麓、旧世羅郡(今は三次市)の甲奴町にも広がっていた。この頭士山は2つに分かれていた荘園のちょうど境目に当たる。この荘園から年貢を運びだすための倉敷地となったのが尾道である。尾道はただの寒村だったのにこの大田荘の倉敷になったことにより、その後発展していくのである。

平家滅亡後は、後白河院から紀州高野山へと寄進される。その後280年余り、様々な曲折を経ながら紀州高野山の所領として戦国時代まで続いていたらしい。世羅町には「今高野山」というお寺が現在もあるが、そこに高野山から僧が派遣され、荘園の経営に励んでいたようである。往時は堂もたくさんあり栄華を誇っていたようである。この辺りで弘法大師信仰が盛んなのはこの頃の名残りかもしれない。



世羅郡世羅町最高峰 頭士山山頂で



今までやまぼうしで登った世羅郡世羅町の他の山

男鹿山 女鹿山